

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：12401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24720062

研究課題名(和文) ルドゥーの都市・建築構想における自然科学的概念(身体・性・類型学)とその政治性

研究課題名(英文) The natural historic notions (body, sexuality and typology) and their ideologic aspects in Ledoux's architectural projects

研究代表者

小澤 京子(OZAWA, Kyoko)

埼玉大学・教養学部・非常勤講師

研究者番号：40613881

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円、(間接経費) 690,000円

研究成果の概要(和文)：ルドゥーの都市・建築計画、特に『建築論』収録のテキストと図版を、「性の管理」、「労働と共同体」、「教育・訓育」の観点から分析した。同時代の重要な比較参照項として、フレヤルクーの建築構想、『百科全書』の関連項目、サド、レティフ、フーリエらの生政治的建築構想、その他18世紀後半のフランスで発行された文献の調査・分析も併せて遂行し、ルドゥーの時代における「性的身体を対象とする生権力」のあり方について見取り図を構築した。

この研究の成果を集成した博士論文「ユートピア都市の書法：クロード=ニコラ・ルドゥーの建築思想」は、審査通過後に単著として刊行予定である。

研究成果の概要(英文)：I analyzed C.N. Ledoux's architectural and urban projects, especially texts and plates appeared in his book "L'architecture" from the following viewpoints; 'the control of sexuality,' 'the labor and the community' and 'the education and the discipline.' In comparison with Ledoux's works, I referred to some of his contemporaries such as Lequeu's architectural and anatomical drawings, to the articles of "L'encyclopedie," to the thoughts of Sade, Restif, Fourier and other texts and documents of 18th century France. Through this approach, I made a panorama of how the 'bio-power' was exercised in the field of body and space in the age of Ledoux.

I clarified Ledoux's notions on space, city, architecture, body and sexuality and their relevance with the precedent and contemporary architects, philosophes and writers. My Ph.D thesis "The Writing of the Utopian City: Claude-Nicolas Ledoux's Architectural Thought," one of the fruits of this research, will be published after the defense.

研究分野：芸術学

科研費の分科・細目：美術史

キーワード：建築史 新古典主義 啓蒙主義 生政治 ユートピア思想 空間表象 18世紀 フランス

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来の研究動向と本研究の位置づけ

ルドゥに関する既存の分析は、大別すると次の三種であった。

一つは、ルドゥの「再発見」を行った E. カウフマンに代表される、モダニズム建築の先駆者という評価である。二つ目は、新古典主義建築の文脈の中にルドゥを精緻に位置づけ直す、主として実証的手法に基づく歴史研究である(近年では D. ラブローによるものが代表的)。三つ目には、「逸脱」の部分を選択的に評価し、時代の文脈からは乖離した特権的な存在と見なす、主に日本の建築批評の分野で主流だった立場(磯崎新、浅田彰ら)である。

ルドゥの生んだ作品を同時代の文脈の中にフラットに位置づけるアプローチでは、その特異性や「同時代性」「影響関係」を超えたインパクトが把握し難い。しかしその特異性ばかりを強調する論法は、その畸形的な建築構想が映し出していた時代特有の心性や欲望を、覆い隠してしまう虞がある。

本研究の立脚する方法論は、個々の建築作品や言説の中に、特定の時代を支配した認識枠組の反映を見出そうとするものだ。それは、単純に「同時代の文脈」の中に解釈の根拠を求めようとする実証主義的歴史研究とは異なっている。彼の作品は、「建築のカラクテル」や「幾何学性」といった同時代の思潮に棹差しつつも、そこから離反する要素をも併せもつ。本研究は、後者の側面を、単に特殊な偏差として片付けるのではなく、むしろこのような「横滑り」が生まれるに至ったプロセスを、同時代の資料を辿りつつ解明していくものであり、基本的に歴史研究である。ルドゥ自身の文章や作品はもちろん、同時代の建築理論、さらには自然史や物理学、美学分野の言説が検討の対象となる。本研究はこの点で、特定の作品(群)を自律的に完結したものと見なし、時代から切り離した解釈を加える立場(例えば近年ディディ=ユベルマンらが提唱する「アナクロニスム解釈」の立場)とも異なる。この点で本研究は、規範からの「離脱」の中に現れ出た、もうひとつの「時代の特性」を明らかにするための方法論を確立することを試みた。これは、芸術学における実証研究と理論研究の分断状況の、架け橋ともなるはずのものである。

(2) 本研究の着想にいたった経緯

私はルドゥや同時代の建築(思想)家についてのこれまでの研究で、以下の諸点を明らかにしてきた。

・建築における「性格/特徴(カラクテル)」概念と同時代のパラダイム:新古典主義時代の建築論では「建築のカラクテル」という

概念がしきりに唱えられた。その含意には、論者により多少の差異があるが、概括すれば、「建築物の外観は、その内部構造や機能、用途、社会的性格を正しく表さねばならない」という当為である。18世紀には、「カラクテル」は幅広い射程を有する概念となっていた。身分制秩序内での振舞いと内面の連関(例えばラ・ブリュイエールの『カラクテル:人さまざま』)、内的な情念の外部表出の問題(画家ル・ブランによる情念と表情の連関の指摘、その背景にある観相学)、あるいは外観の徴表に基づく自然史上の分類概念(リンネ、ビュフォン)などである。ここではいずれも、外部や表層における内的なものの発現態様、あるいは外観から不可視の内部を読み取る作法が問われている。

上記の問題設定から、私はルドゥの作品(建築計画図面、建築物、建築思想)を、同時代の観相学や自然史の概念との関連性・通底性においてとらえ、「モンスター(キメラ的畸形・怪物)」、性的なメタファー性という三つの鍵概念を導き出した。その上で、ルドゥの建築構想が、同時代の思惟の反映を目指しつつも、そこから逸脱するような性質も併せ持っていることを指摘した。

・ルドゥの『建築書』に体现された都市構想の分析:ルドゥの著作は、彼自身が設計を手掛けた実在する王立製塩所をモデルにしたつつ、工業生産を基盤とする理想的なコミュニティの計画を展開したものである。そこでは、共同体を統治する秩序や制度が、建築意匠や都市構造(建築物の配置関係)として体现されている。この著作のテキストと収録図版を中心とする分析を通して、私はルドゥにおいて特徴的な要素、すなわち「宇宙創造主としての建築家」というイメージ、太陽崇拜・惑星配置と都市構造との照応関係、「視線(中央から発せられる光線のメタファー)」による支配と管理という発想、の3点を明らかにした。

上記の研究を通して、とりわけルドゥの都市・建築構想における自然科学(自然史・生物学)上の分類概念との通底性、また身体性とそこに伏流する政治性を、さらに精緻に分析する必要性を強く感じるに至った。

2. 研究の目的

ルドゥの都市・建築構想に反映された自然科学的概念(身体・性・類型学)とその政治性について、次の2点において解明する。

(1) ルドゥならびに同時代の建築家たちによる、建築の「性格/特徴(仏: caractère)」 「類型(仏: type)」という概念と、当時の芸術理論一般における同概念、自然科学における分類概念との連関と相違。

(2) 理想都市構想における「労働(travail)」

と「教育(éducation)」という概念が有する、近代的なディシプリン(規律・訓練)という側面と、同じ語がもつ性的な側面の分析。D.A.F.ド・サドやシャルル・フーリエらによるユートピア構想との比較。

3. 研究の方法

(1) 一次文献の調査・読解

・クロード=ニコラ・ルドゥの『建築論』とそのプロトタイプである「趣意書 *Prospectus*」。

・ルドゥの師ジャック=フランソワ・ブロンデル(ルドゥの師)による『建築講義 *Cours de l'architecture*』、および彼が執筆を手掛けた『百科全書』建築関連の項目。

・エティエンヌ=ルイ・ブレ(ルドゥの兄弟子、また「幾何学性」「ニュートンの宇宙観」「ヘルメス主義」を反映させた建築構想という点でもルドゥと通底)による『建築試論 *L'architecture: l'essai sur l'art*』。

・その他、上記と関連する 18 世紀半ばから 19 世紀前半に至るまでの建築論・都市論および自然科学の言説。

(2) 建築案 (= 図面) の調査、分析。

4. 研究成果

H24 年度の主な成果は、ルドゥ『建築論』(およびそのプロトタイプである「趣意書」)収録のテキストと図版の分析を、特に「性の管理」、「労働と共同体」、「教育・訓育」に関連する部分に焦点を当てて行ったことである。その際に、重要な比較参照項として、ルドゥとほぼ同時期に「空想的」建築案と解剖学的な人体部分を描いたルクーのドローイング、この時代の思想の体現である『百科全書』の関連項目、ルドゥと身体・性への見方の共通するサド、レティフ、フーリエの建築構想と「身体・性への管理」のあり方を分析し、その相互関連性を示した。また、18 世紀後半のフランスで発行された文献の調査・分析も併せて遂行することにより、ルドゥの時代における「性的身体を対象とする生権力」のあり方について、大局的な見取り図を構築した。

H25 年度には、ルドゥの都市構想を、性的身体、労働する身体の管理と建築空間との関連という点に着目し、同時代人サドやレティフ、また共通点の多い後代のフーリエらによる社会改革構想と比較しつつ、資料解釈と分析を進めた。とりわけ、ルドゥと比較において、「建築家としてのサド」という、極めて重要な先行研究の乏しいテーマに関しては、国内の研究会およびポーランドでの国際学会(国際美学会)において口頭発表を行った。

以上の成果として、ルドゥにおける同時代や先行世代の建築家・思想家・文筆家たちの

影響と、そこに反映された空間、都市、建築、身体に対する認識のあり方が明らかとなった。

この研究の成果を集成したものが、東京大学に H26 年 3 月に提出した課程博士論文「ユートピア都市の書法：クロード=ニコラ・ルドゥの建築思想」であり、この論文は審査通過を条件として、法政大学出版局より単著として刊行の予定である。

また、建築と同時に衣服も「身体を囲繞する空間、被覆物」であり、身体に対する規範意識や自意識が現れる場である。このような問題意識に基づき、現代の「ファッション」に対しても批判的アプローチを実施し、共著論文、口頭発表の研究成果を挙げた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

小澤京子「書物の中の理想都市 : C.N.ルドゥ『建築論』の仮構的空間性」『埼玉大学紀要 教養学部』査読無 Vol.49, No.1, 2013, 21-36。

小澤京子「『二度と来ない少女時代』に：ガリー・カルチャーの源泉としての中原淳一」『ユリイカ』査読無(寄稿依頼), No.637, Vol.45-16, 2013, 75-85。

小澤京子「映画の基盤を掘り崩す」『ユリイカ』査読無(寄稿依頼), No.614, Vol.44-9, 2012, 212-219。

小澤京子「モダニズム都市と幻想：昭和初期のイメージとテキストから」『魔術/美術：幻視の技術と内なる異界』(展覧会カタログ)、査読無(寄稿依頼)、2012、55-57。

[学会発表](計 7 件)

小澤京子「書物としての理想都市：C.-N.ルドゥ『建築論』の構造」、大阪大学文学研究科共同研究「西欧近代における旅と風景のディスクール」2014 年 3 月 4 日、北海学園大学。

Kyoko OZAWA, “Sade, the Architect: Characteristics of the Narrative Spaces in *Voyage d'Italie*”, The 19th International Congress of Aesthetics, 26 July 2013, Jagiellonian University, Poland.

小澤京子「サドのイタリア紀行：空間性と

時間性、身体への眼差し」大阪大学文学研究科共同研究「ヨーロッパ文化としてのグランド・ツアー」、2013年3月5日、北海学園大学。

小澤京子「情念定型のメタモルフォーゼ：ベル・エポックのニンファ」、シンポジウム「ヴァールブルク美学・文化科学の可能性」、平成24年度科学研究費補助金・基盤研究(B)「ヴァールブルク美学・文化科学の可能性」(研究代表者:伊藤博明)主催、2012年12月22日、東京大学。

小澤京子「Think of Fashion 002 keisuke kanda:「ガーリー」の突然変異」トークショー「Think of Fashion ファッションを考える」実行委員会主催、2012年11月25日、カフェ&ギャラリー「ブロックハウス」。

小澤京子「C.-N. ルドゥの理想的都市構想における労働・教育・性愛」美学会第63回全国大会、2012年10月6日、京都大学。

岡田温司、田中純、多賀茂、鯖江秀樹、小澤京子、表象文化論学会第7回大会企画パネル「皮膚/表象としての建築/ファシズム—小澤京子『都市の解剖学』、鯖江秀樹『イタリア・ファシズムの芸術政治』を読む」2012年7月8日、東京大学。

〔図書〕(計1件)

小澤京子「COMME des GARÇONS、あるいは衣服という表面においていかに多様な性を上演しうるか」、西谷真理子編『相対性コム デ ギャルソン論：なぜ私たちはコム デ ギャルソンを語るのか』フィルムアート社、2012、総ページ数400、220-244。

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

小澤 京子(OZAWA, Kyoko)
埼玉大学・教養学部・非常勤講師
研究者番号：40613881

(2)研究分担者

該当なし

(3)連携研究者

該当なし